

第5章

施設概要とこれまでの取組

1 施設概要

所在地：厚別区厚別中央1条5丁目

建築年：昭和56年（1981年）

電話：892-5001

敷地面積：7,374㎡

建物構造：鉄筋鉄骨コンクリート
地下1階、地上4階建

延べ床面積：10,017㎡

開館時間：5～9月 午前9時00分～午後5時00分
10～4月 午前9時30分～午後4時30分

休館日：月曜日、毎月最終火曜日、祝日翌日、特別展最終日翌日、年末年始
(ただし、4月29日から5月5日まで及び特別展期間中は無休)

所管：札幌市教育委員会生涯学習部

運営管理：指定管理者（公益財団法人 札幌市生涯学習振興財団）

※指定期間：平成30年4月1日～平成35年3月31日



展示室概要：

展示テーマ	3テーマ：「宇宙」、「北方圏」、「原理・応用」 (科学技術の普遍性・系統性と地域性・生活性を中心に、札幌の文化的、地理的特色の中から設定)
展示分野	全16分野 「天文・地球科学」、「雪・氷」、「音」、「光」、「鏡」、「情報・通信」、「環境」、「生命」、「熱」、「化学」、「ロボット」、「電気」、「人体」、「運動と感覚」、「山崎直子宇宙飛行士」、「交通・力学」
展示コンセプト	「見て、触れて、考える」

施設設備概要：

場所	名称	用途	広さ	定員
1 F	工作室	休日等を実施する工作会等	85 ㎡	20 人
	プラネタリウム	学習投影（理科授業等）、 夜間特別投影等	335 ㎡	200 人
2 F	常設展示室	「天文・地球科学」、「雪・氷」、 「音」、「光」、「鏡」、「情報・ 通信」、「環境」、「生命」分野	1,947 ㎡	—
	特別展示室	特別展（春・夏・冬）、企画展等	344 ㎡	100～200 人
3 F	常設展示室	「熱」、「化学」、「ロボット」、 「電気」、「人体」、「運動と感覚」 、「山崎直子宇宙飛行士」、「交 通・力学」分野	1,839 ㎡	—
	実験実習室	実験教室、教員研修等	160 ㎡	32 人
	サイエンスホール	大型実験（理科授業等）、 科学に関する講演会等	390 ㎡	100～150 人

●札幌市青少年科学館の展示の在り方について（答申）

展示物の在り方

(1) 役割の明確化

展示物と学習指導要領との関連性や展示のねらいを明確にし、教員や利用者が活用しやすい解説資料の作成などを検討する。

(2) 体験型要素の拡充

展示物で人気があるものの共通点として、触れたり乗ったりして楽しめる体験型のものが多いことから、展示物の新設や更新に当たっては、これらの要素をこれまで以上に取り入れ、利用者の興味・関心を高める方策を検討する。

(3) 配置の見直し

展示内容の充実を図る観点から、大学や研究機関、企業等による取組や先端技術などを紹介する企画コーナーを設けるなど、展示物の展示方法や配置などの変更を検討する。

(4) 展示分野の再構築

展示物は全 16 分野に区分されているが、開館から長期間が経過しているため、展示分野が体系的、統一的な配置となるよう、定期的・継続的に展示分野の見直しについて検討する。

科学館の在り方

青少年の学習の場として、また、生涯学習の場として重要不可欠な施設であり、あらゆる世代の市民が科学について楽しく学べる場として、常に魅力的な施設であり続けるよう検討する。

また、科学館が市民にとってより身近な「学びの場」となるよう展示物を分かりやすく楽しく説明できるボランティアの育成・活用についても、併せて検討する。

3 平成 26 年度青少年科学館を活用した理科教育推進の 在り方検討調査（有識者会議）

概 要

科学館の現状と課題、各種調査等の結果を踏まえ、科学館を活用した理科教育推進の方向性と展開方策について、考察・検討するもの

調査から見えた課題

(1) 学校教育との連携上の課題

- ア 学校では再現が難しい展示物（自然災害発生メカニズム等）の設置要望
- イ 実験室の学校活用のための増床や実験実習セットの貸出数の増加

(2) 児童生徒の興味や探究心を高める理科授業構築のための課題

- ア 授業を実施する教員の負担軽減のための支援
- イ 観察、実験に対する事前準備などの負担軽減と教員の苦手意識の克服

(3) 企業・大学や民間団体との連携上の課題

- ア 開発した先端技術や研究成果を市民へ伝える場の提供
- イ ボランティア等が活動しやすい環境の提供

考察・検討を踏まえて示された重点テーマと展開方策

(1) 青少年科学館と学校教育との連携強化

- ア 学年単位で受入可能な実験室の整備
- イ 教育課程を踏まえた魅力ある展示物の再構築
- ウ 科学・理科好きが集う研究実験サロンの整備

(2) 児童生徒の興味や探究心を高める理科授業構築のための取組の強化

- ア 理科の観察、実験を充実するための教員研修機能の整備
- イ 理科の観察、実験を伴う授業を実施するための支援体制の充実
- ウ 大学と連携した観察、実験を伴う学習機会拡充のための教員育成機能の整備

(3) 企業・大学等と連携したサイエンス・リテラシーを育む機能の拡充

- ア 最新科学技術を体験する展示スペースの設置
- イ 企業や大学等の研究成果の発表の場の整備
- ウ 産官学プラス市民ぐるみの札幌らしい人材育成の取組